

『食卓での楽しい会話』は、何よりのごちそう！



触覚・嗅覚・味覚を意識した会話も大切ですね。

どんな感じ？ どんな匂い？ どんな味？ どんな音？ …表現を促してみましょう。



実際に食べながら表現できる言葉は、絵本や画像と違い、しっかりと理解し、身に付き、語彙力の向上に役立ちます。

★ 口当たり(歯ざわり)を表現してみよう

食材の口当たりや歯触り、手触りを想像したり、実際に食べてみて、言葉で表現できるように促してみましょう。

また、「りんご」や「きゅうり」など、噛んだときに音が出る食材の音の表現もよいでしょう。日本語には触覚を表す言葉がたくさんありますね。

とうふ



＜表現例＞

つるつるしている、冷たい
やわらかい、なめらか、
すぐ歯でくずれる、
とけそう など

ラーメン



＜表現例＞

つるつるしている、
温かい、熱い、
やわらかい、なめらか、
こしがある など

りんご



＜表現例＞

シャキシャキしている、
シャリシャリしている、
冷たい、
かたい など

★ 匂いや味を表現してみよう

実際の食材やいらすと、写真などをみて、想像するのも楽しい会話につながります。みかんなどでは、すっぱかったり甘かったり、個体差があることも理解できるといいですね。

たまねぎ



＜匂いの表現例＞

ツーンとした匂い、
いい匂い、
目にしみる、
土の匂い など

＜味の表現例＞

辛い、甘い、
しょっぱい など

レモン



＜匂いの表現例＞

さわやかな匂い、
いい匂い、
フレッシュな匂い など

＜味の表現例＞

すっぱい など

納豆



＜匂いの表現例＞

臭い、こぼかしい匂い、
腐ったような匂い、
生臭い など

＜味の表現例＞

しょっぱい、腐ったような味
しょうゆの味 など



ママ～！ おさかな、あまずっぱくて、
おいしいよ！ ケチャップのあじだね。